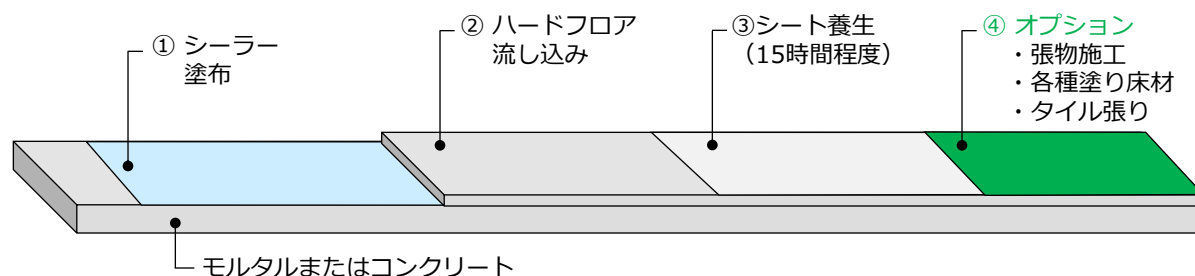


ハードフロア

施工要領書 1 / 2

施工展開図 (塗り厚 : 3mm~10mm)



標準仕様

工程	配合比	使用量 m ² あたり	施工道具	次工程までの施工間隔
① シーラー塗布	原液使用	原液 300cc 塗り回数 1回	ジョーロ ハケ ゴムレイキ	完全乾燥後
② ハードフロアコテ塗り	粉体 20kg 水 4ℓ	塗布回数 1回 塗り厚 3~10mm	高速ミキサ 練り容器 各種コテ	軽歩行可能 10℃ 約6時間 20℃ 約3時間 30℃ 約2時間
③ シート養生	0.01の養生シート		カッターナイフ マスキングテープ	1.5時間以上 (使用開始)

※シーラーは、施工日に塗布することが望ましい。

※5℃以下の施工はできません。

※吸水性が激しい下地の場合はシーラーは2回塗布してください。

※シート養生はハードフロア施工後軽歩行が可能になったら行う。躯体の温度で硬化スピードは異なります。

ドライアウト防止が目的なので風が入らないように養生してください。1.5時間以上養生後開放可能です。

試験結果表

試験項目		試験結果	試験方法
比重 (kg / ℓ)	スラリー	2.16	建築工事標準仕様書 JASS 15M-103
	硬化体	2.06	
フロー値 (mm)		220	
耐ひび割れ性		ひび割れの発生無し	JIS A 6916 (建築用下地調整塗材) による
耐衝撃性		ひび割れ及び剥がれ無し	
曲げ強さ (N / mm ²)		12.8	
圧縮強さ (N / mm ²)		78.0	
付着強さ (N / mm ²)	標準養生	23.6	
	低温養生	21.7	
吸水量 (g)		1.0	
長さ変化 (%)		0.036	

ハードフロア

施工要領書 2 / 2

施工手順



下地の清掃

下地のモルタルコンクリートに付着した汚れ、ホコリ等を取り除いてください。
高圧洗浄等で水洗いした場合は必ず乾燥させてください。



シーラー塗布

原液で使用します。ジョーロを使用し、塗布面にたっぷりと散布します。デッキブラシで下地にすり込んでから、余分なシーラーをゴムレイキでかきとります。

※シーラー塗布が充分でなかったり、ムラがあるとハードフロア塗布面にピンホールが発生します。

シーラーが完全乾燥後、ハードフロアを施工します。

※下地の吸水性が激しい場合シーラーは2回塗りしてください。
1回目は50%の水で薄めて使用します。2回目は原液を塗布します。1回目が乾燥してから塗布してください。



ハードフロア混練り

混練り容器に、水(4ℓ)を投入し、高速ハンドミキサーで攪拌しながら、ハードフロア(20kg)を徐々に投入します。投入完了後、2分間十分に混練りしてください。

ハードフロアは30分以内に使い切ってください。30分を経過すると流動性がなくなってきます。



ハードフロアコテ塗り(3~10mm)

混練りしたハードフロアを流し込み後、ただちにコテで塗り広げてください。

コテ波が出ないように平坦に塗り広げてください。